

校長研修だより146

年度初めの学級づくり

2024・4・10 重枝 一郎

まず、学年教師同士がつながる

教職は対人援助職である。対人援助は十人十色であり、援助内容や方法に正解はない。Aさんにとって有効だった方法が、Bさんにうまくいくとは限らない。教育において、「唯一正しい解」はない。

だから、私たち教師は、常に迷いや不安がある。そんな時に、他の先生から、さりげない肯定的な一言があると救われる。「さっきの生徒への対応、すごくよかったよ」などの一言で、勇気や自信がわいてくる。

4月は、私たち教師も不安と期待が入り混じる。新しい校務分掌や経験がない学年所属等、分からないことが多い時期だからこそ、仲間同士の良好なコミュニケーションが重要になる。忙しければ忙しいほど、誰かと一緒に考えた方がいい。教師同士のつながりが、困難な時期を乗り越えさせる。また、学年主任同士のつながりも大切である。学年主任同士のコミュニケーションの活性化は学校を進化させる。

教師同士で話す時に、相手に対する「毒語」は厳禁である。「毒語」を撒き散らされると、まわりまで息苦しくなる。職員室には、心理的酸素が必要である。

では、心理的酸素のある職員室では、どんな会話をするだろうか。

例えば、ある先生の教育実践で「いいな」と思うことを、具体的な場面を用いて話す。その話を聞いた先生は、そのことをさりげなくその先生に伝えるようにする。そうすると、その先生の自己肯定感を上げることになり、職員室のよい空気づくりにつながる。

年度当初の学校・学年・学級づくりのベースは、教師同士のつながりである。

生徒同士をつなげる「出会い」

年度当初の学級づくりでは、数名の仲良しグループが固定化しないように意識する。クラスの中で「誰とでも組める」安心感をつくりたい。

例えば、自己紹介の方法として、「サインをもらおう」というエクササイズがある。これは、「呼ばれたい呼び方」や「趣味・特技」「誕生日」などを聴き、ワークシートに書き込み、相手のサインをもらうエンカウンターワークである。その時に握手をするなど、スキンシップを入れるのもいい。スキンシップは安心感を高める。

また、「My name is・・・」も出会いの時期に行うよくするエクササイズである。これは、自分の名刺を作り（宿題でもよい）、握手してその名刺をもとに自己紹介をする。その後ジャンケンをし、勝ったら名刺をもらうというものである。どんな名刺にするのかも楽しみの一つになる。活動後は、シェアリングを行う。誰の名刺をもらったか、印象に残った自己紹介は？等を発表する（よかった自己紹介をみんなの前でもう一度やってもらってもよい）。

また、「すごろくトーク」も、抵抗感なく取り組める。これは、すごろくトークシートを準備して、サイコロの出た場所に書いてある話題について話をするワークである。話す内容が「自己紹介」にもなり、楽しみながらお互いを知ることができる。

このような「人間関係づくり」を意識した活動を通して、クラスの誰とでも触れ合うことができるように仕組む。生徒同士をつなげる「出会い」を演出する。

演習の後は、「あなたはこの時間で何を“たし算”しましたか？」